

### No.275 平成30年2月5日 発行 林野庁屋久島森林生態系保全センタ

バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式の 見ばべり ダウンロードはこちらにあります

http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\_hozen\_c/



♦♦≢₽┴@♦♦¥₽┴@♦♦₽¥₽┴@♦♦₽₽₵@♦₽¥₽┴@♦₽¥₽┴@♦₽¥₽┴@♦₽¥₽┴@♦₽¥₽┴@♦₽¥₽┴@♦₽¥₽┴@♦₽₽₽₽₩₽₽₩₽₽₩₽₽₩₽₽₩₽

## 松枯れ対策を関係者で確認 (12月13日)

当保全センター会議室において、平成29年度松枯れ対策連絡協議会屋久島支部会を屋久島森林管理署、環境省、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町、森林総研九州支所、屋久島ヤクタネゴョウ調査隊、樹木医の関係者15名が参加して開催しました。

協議会は古市所長の進行により、各機関から昨年度及び本年



協議会の模様

度の松枯れ被害の状況とその対応状況について報告があり、被害状況は民有林・国有林とも昨年 度より減少しているものの、ヤクタネゴョウが島内で最も分布している西部林道に近い栗生地区 において増加していることが報告されました。

今後の防除方針について、森林総研九州支所の金谷主任研究員から防除する箇所のゾーンニングを行うことが重要であり、屋久島においてはヤクタネゴョウと南限であるアカマツが分布している地域を最優先かつ重点的に防除対策を講じるようにとの提言がなされ、提言に沿って各機関が連携して今後とも防除対策を講じていくことを確認しました。

## **元気に育て** 一 中学生が植樹体験 一 (1月26日)

屋久島町立安房中学校1年生31名を対象に森林教室(植樹体験)を実施し、屋久杉自然館の敷地内にリンゴツバキを植樹しました。

当センター永山自再生指導官より、リンゴツバキをよく知ってもらうため、葉や枝を見て触ってもらい感じたことなどを共有したり、ツバキシギゾウムシとの共進化の話やツバキシギゾウムシのリンゴツバキへのアタックを生徒に体験してもらうなどして、生徒の興味を引いたところで、奥村生態系管理指導官より、地拵えから植付けまでの各作業について、なぜその作業が必要



気持ちも込めて丁寧な植栽

かも含め丁寧に説明し、実際に苗木を使って一連の作業のデモンストレーションを行い学習してもらいました。

生徒達は、いざ山鍬を振りかざしての作業になると、ぎこちない手つきではありますが、元気に育ちますようにと気持ちを込めた丁寧な作業で怪我もなく終了することが出来、満足げな顔をしていました。

最後に、夏頃になると下草が生えてくるので、 次回は保育についても是非学習しましょうと声 をかけ森林教室を無事終了しました。

## 2018~2019年度「国有林モニター」の募集について

林野庁九州森林管理局では、より多くの国民の皆様に身近な存在として国有林を感じていただけるよう、森林・林業や国有林に興味を持たれる一般の方々を対象に、国有林の役割や現状等の情報をお知らせし、また御意見をいただく「国有林モニター」を実施しています。

この度、2018~2019年度「国有林モニター」を下記のとおり募集いたします。皆様からのご応募をお待ちしています。

【募集人数】 60名程度(各地域で均衡を図るため、最終的な人数と前後することがあります。)

【依頼期間】 2018年4月1日~2020年3月31日(2年間)

#### 【依頼内容】

- ・森林・林業、国有林に関するアンケートへの回答(匿名にて公表することがあります)
- ・森林・林業、国有林に関する御意見や御提言などの報告、弊局広報紙への投稿
- ・国有林モニター会議への出席(年1~2回、希望者のうち一定数)

#### 【応募資格】

九州・沖縄8県にお住まいの20歳以上(2018年4月1日現在)の方で、森林・林業および国有林に関心を有する方。 ※ただし、国会及び地方議会の議員、地方公共団体の長、常勤の国家公務員、国有林野事業職員 OB、森林・林業担当の自治体職員並びに2016~2017年度(平成28~29年度)に国有林モニターであった方は除かせて頂きます。

#### 【応募方法】

下記必要事項をご記入の上、ハガキ、封書、メール又はファックスのいずれかの方法で、以下の宛先まで 御応募ください。御不明な点につきましては、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号

九州森林管理局 企画調整課 国有林モニター担当

TEL: 096-328-3511 FAX: 096-328-3643 E-mail: ky kikaku@maff.go.jp

#### 【必要事項】

- ・氏名(ふりがな)、性別、生年月日、年齢、職業、住所、郵便番号、メールアドレス、電話番号
- ・国有林モニターを知ったきっかけ(具体的に記入)
- ・国有林モニターに応募された理由(100字程度)

※ご応募いただいた個人情報は、個人情報の保護に関する法律に従い、適正に取り扱います。なお、一度送付いただいた申込書はお返ししませんので、あらかじめご了承願います。

【募集期限】 2018年2月28日(水)(当日消印有効)

#### 【発表】

- ・選考結果は、2018年3月末日までに依頼状の発送をもってお知らせいたします。
- ・依頼状と共に、確認事項と同意書をお送りしますので、署名の上ご返送下さい。
- ・選考結果に対する個別のお問い合わせにはお答えできませんので、あらかじめご了承下さい。

#### 【問い合わせ先】

九州森林管理局 総務企画部 企画調整課

国有林モニター担当:渋谷

TEL: 096-328-3511 FAX: 096-328-3643

## ∼屋久杉と共に~ 小杉谷と森林軌道 (第2回)

佐々 彰聰 (屋久杉自然館 館長)

#### 

小杉谷事業所には、昭和35年頃、雪掻き用のラッセル車が あり活躍した。今考えると南の島にこのようなものがあると いうことは非常に珍しい。学校が休校になったり、下から食 料などを運んだり、緊急時の対応など軌道を使える体制が必 要で、常に雪掻きをしていた。機関車の前にラッセル車を取 り付けて、その上に15くらいの重さの砂利をのせていた。 機関車の押す力とのバランスや、除雪板の角度調整などにも 大変苦労していた。しかしながら、昭和38年の「サンパチ豪



稼働するラッセル車

雪」時には、全く歯が立たず、石塚集落(標高約820㍍)は1ヶ月近く機関車の入線がなかった。

#### 

屋久島の森林軌道ならではのものとして、屋久杉の切株を利用した珍しい形の橋がある。橋脚 として切株をそのまま使い、その上に木材を置いて枕木と軌道を敷いている「切株橋」は、腐食 しにくい屋久杉の強さと人々の畏敬が感じられる。その他、昭和28年台風の大雨による土砂崩れ で寺田八太郎さん一家が遭難したことから「八太郎橋」、富山県の渡り山師一行が付近に居住して いたことから「富山橋」、屋久杉の大径木がごまんとあったことから「万石橋」、長い歳月の間に は悲しい事故もたびたびあった。小杉谷を下りた4\*。あたりの谷には、三五郎さん親子5人が転 落した「三五郎橋」と呼ばれる橋も残っている。

#### 

「おーいトロがでるぞ」日曜日の午前8時になると「さあ町へ下ろうか」と、そこかしこの住 宅から子ども連れの奥さん達と、そして今日ばかりとこざっぱりしたポロシャツに着替えて山男 達が集まる。ブレーキをはずすと特製の大型トロッコは静かに滑り出した。安房までの16\*」は下 る一方で動力不要の約1時間、絶壁をはう急カーブや深い谷をまたぐ橋の連続に運転係はブレー キ操作に忙しい。レールはきしみ、鉄輪の音が安房渓谷にこだまする。慣れない者なら目がくら



賑わう安房集落

み下半身がすくみあがるが、通い慣れた山の人たちは余裕 たっぷりである。無事に到着すると買物、病院、映画、美 容室など多忙な半日を過ごす。

そして午後3時のターミナル。日曜を町で過ごした山の 人たちが集まる。「汽笛一声」機関車で引かれた大型トロは、 ゆっくりと家路へ。荷台には魚・野菜など生鮮食料品や子 どもたちの文房具などが満載されている。焼酎ビンもみえ る。明日からまた1週間は山の生活となる。(つづく)



### **屋久島の植物** アカマツ (マツ科)

北海道南部以南に分布し屋久島を南限とする常緑高木。モッチョム岳、七 五岳などの尾根や岩山に生育している。強い風のせいか屋久島では高木にな らない。アカマツはクロマツより樹皮が赤く、葉は柔らかい。

## 屋久島生態系モニタリング



#### 屋久島北部等の植生垂直分布調査 (平成27年度)

#### 植生(群落域や湿原植生)の状況調査(小花之江河)

#### 「植物群落の状況〕

各植物群落の面積の経年変化を、表1に示す。湿原全体においては、各群落の大の植生経年変化(プロット1~3集計) きな変化は見られなかったが、高層湿原を代表するイボミズゴケの面積が2.7%減 少した。

#### [植生(固定プロット)]

小花之江河における植生調査結果の概要を、表2に示す。各プロットにおいてイボ ミズゴケなどの湿地性の植物の減少が顕著である一方で、スギゴケといった比較的 乾燥した環境でも生育可能な植物の増加が見られた。プロット2においては土砂の 流入により裸地の面積が拡大した。また、ヤクシカの食痕が各プロットで確認された。 これら確認された植物種の多くは矮小化が目立ち、ヤクシカによる採食圧によるもの である。

表1. 小花之江河における植生群落の経年変化

群落名	H18		H22		H27	
	面積(㎡)	面積率(%)	面積(㎡)	面積率(%)	面積(m²)	面積率(%)
スギを優占とする群落	147.1	5.4	151.0	5.5	151.1	5.5
ビャクシンを優占とする群落	758.5	27.8	726.5	26.6	762.5	27.9
ツゲを優占とする群落	407.6	14.9	407.0	14.9	408.0	14.9
ヤクシマシャクナゲ等を優占とする群落	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
イボミズゴケを優占とする湿原植生群落	511.0	18.7	557.9	20.4	482.2	17.7
湛水箇所の裸地を含む湿原植生群落	275.0	10.1	234.6	8.6	277.5	10.2
土砂堆積地	20.7	0.8	20.1	0.7	61.6	2.2
流路•溜池	551.9	20.2	574.7	21.0	528.9	19.3
木道	58.4	2.1	58.4	2.1	58.4	2.1
計	2,730.20	100.0	2,730.20	100.0	2,730.20	100.0

表2. 小花之江河における固定プロット

	植被率(%)				
	H18	H22	H27		
アセビ*1	0.00	0.00	0.03		
アリノトウグサ	0.03	0.10	1.00		
イグサ	0.03	0.00	1.35		
イボミズゴケ	20.54	23.03	6.76		
クロホシクサ*2	0.48	0.40	0.00		
コケスミレ	0.93	1.23	1.03		
コハリスゲ	2.87	4.40	2.06		
スギゴケ	4.66	6.60	7.13		
ハリコウガイゼキショウ	18.61	39.75	31.24		
ヒメコナスビ*2	0.00	0.10	0.00		
モウセンゴケ*2	0.00	0.20	0.00		
ヤクシマオトギリ	0.52	0.73	0.07		
ヤクシマゴケ*1	0.00	0.00	2.19		
ヤクシマダケ	0.00	0.10	0.71		
ヤクシマニガナ	0.52	0.70	0.03		
ヤクシマホシクサ	0.59	0.80	3.36		
水路	9.87	8.20	5.73		
湛水域	34.52	6.56	26.25		
裸地	5.83	7.10	12.04		
合計種数	11	13	13		

#### 赤\*: 今年度新規確認種

青\*

?: 今年度確認されなかった種



## 巨樹·著名木 屋外移

# びびんこ杉

びびんこ杉は、切り株の上に発芽し、根を下 ろした二代杉で樹齢は、300年未満の若い杉 です。

平成11年に一般公募による名前募集で名 付けられました。

その名付けの理由は、親子が肩車(鹿児島弁 で"びびんこ")をしているような、ほのぼの しい光景になぞられて命名されました。

着生する木本類は、ナナカマドやヤマグル マ、アオツリバナ、ヒカゲツツジ等です。

> 樹高: 20.0 元 胸高周囲: 9.0 位 樹齢:350年

標高:810位

場所:白谷雲水峡 奉行杉コース